

たのであろうか。この血盆経への寄進は大奥や諸大名家の奥女中の女性が主体であり、布橋灌頂への寄進とは対照的なことも明らかにされた。

以上のように、本書は新出の宝泉坊文書から江戸城下町における立山信仰の浸透過程を解明したものであり、評者が一九八〇年代に立山信仰の調査を始めたころには、ほとんど明らかにされていなかった信仰圏という大きな課題を掘り起こした画期的な成果であるといえる。

(A5判 五〇一頁 二〇一一年八月)

法蔵館 税別一〇〇〇円)

(岩倉通明 山形大学教授)

丸山俊明著

『京都の町家と火消衆』

——その働き鬼神の如し——』

本書は、前著『京都の町家と町なみ』（昭和堂、二〇〇七年）に続いて、著者が近世京都の都市構造と火消衆をテーマとした既発表論文を集めたものである。木造建築の多い近世都市の消防対策は、そこに生

きる住民とともに、為政者である江戸幕府にとって極めて重要な課題であり、従来も都市社会史・政治史などの多様な視点から研究がなされてきた。その中で、本書の分析手法として注目されるのが、消防対象である町家の建築的変遷（防火性能など）が諸所で踏まえられている点であり、著者の専門分野である建築史的なアプローチが活かされている。さっそく本書の概要を以下に示そう。

まず、京都所司代・町奉行の火消と大名火消に関する考察がなされる。近世京都で制度的に存在した①京都所司代と京都町奉行による火消と②京都周辺の諸藩の大名による大名火消について、実際の火事現場での指揮権の所在を分析するとともに（第一章）、大名火消の全体像を解明する（第五章）。また、禁裏御所を担当する禁裏御所方火消について、享保期の改革によって洛中の消防を兼務することになったものの、洛中の町々の消防には積極的ではなく、あくまで禁裏御所が最重要の消防対象であったことを指摘する（第三・四章）。これらの分析から、右記の為政者側による火消の有効性に疑義を呈する。

これに対して、著者は、町人による消火活動である町火消を積極的に評価する（第二章）。具体的には、町が定めた掟に見られる消火活動に関する規定に注目することなどを通じて、町火消が実際にどのような存在・機能していたかという実状を明らかにし、町火消の有効性を論じている。先行研究における「町人＝消火活動を忌避した」という図式に対して再考を迫る、本書の核の一つとなる主張である。これと表裏になっているのが、町家の構造に注目した分析であり、町家の図面を呈示しつつ、いかに火災が建物内で広がるかにまで言及することによって、町人による消火活動と町家の建築が有機的に関連させられている。こうした町火消以外の火消に関する検討も行われており、妙法院境内などの消火活動を担った寺社火消（第六章）や、近隣村落の百姓による消防活動（第七章）についても分析がなされている。

また、著者の建築史的な関心が直接的に窺える議論として、京都の町家の軒先に設置された板（第八章）と町家の看板（第九章）に関する考察が挙げられる。前者では、板の存在意義が、火消による屋根上での作

業の拒否を明示することであつたとし、後者では、町奉行所による看板の設置規制の目的を、火消が通行する障害となるか否かという観点から検討している。さらに、火消との関連から、町人の自己防衛を考えるため、木戸門に関して前著以降に得られた知見も、併せて述べている（第十・十一・十二章）。

そして、以上の成果を時系列に沿って並べ、近世京都の町家の建築を踏まえつつ、火消の制度と実状を総合的に考察すること、で結論を導いている（結章）。

「鬼神のごとし」と評された火消衆を多面的に解明した本書は、消防を焦点としながら、都市住民と為政者の関係を、建築物の特質に配慮しつつ捉えた点に研究史上での意義を見出すことができる。また、都市に関心を持つ者にとっては、分析方法や発想を得る上で一つの道標となろう。是非ご一読をお勧めしたい。

（A5判 五〇四頁 二〇一二年二月

昭和堂 税別七〇〇〇円）

（石津裕之 京都大学大学院文学研究科修士課程）

会 告

去る六月二日に開催されました史学研究会理事・評議員会におきまして左記の事項が可決、承認されましたのでご報告申し上げます。

記

- 一、平成二十三年年度決算報告
- 一、平成二十四年度予算案
- 一、役員の変更
- 1、退任

理事 長	夫馬 進（↓理事）
常務理事	金澤周作、
理 事	吉井秀夫（↓評議員）
	上原真人（↓理事長）、
	井谷鋼造（↓常務理事）、
	金坂清則、藤井譲治、
	森 時彦
監 事	岩井茂樹（↓理事）
評議員	米家泰作（↓常務理事）、
	小関 隆（↓監事）、
	井上浩一、植村泰夫、
	小林 茂、桂川光正、
	杉橋隆夫、吉田伸之

2、新任

編集委員	上杉和央、鍛冶宏介、
	溝上宏美
庶務委員	上野大輔、小野容照、
	河野正訓、権 潤 永、
	米澤亜実
理 事 長	上原真人（↑理事）
常務理事	井谷鋼造（↑理事）、
	米家泰作（↑評議員）
理 事	夫馬 進（↑理事長）、
	岩井茂樹（↑監事）、
	高木博志、横田冬彦
監 事	小関 隆（↑評議員）
評議員	金澤周作、
	吉井秀夫（↑常務理事）、
	石川禎浩、大野晃嗣、
	佐藤 信、根津由喜夫、
	林 和生、美川 圭
編集委員	井上 治、黒岩康博、
	柴田陽一
庶務委員	鈴木健雄、妹尾裕介、
	本庄総子、宮崎涼子、
	横大路綾子